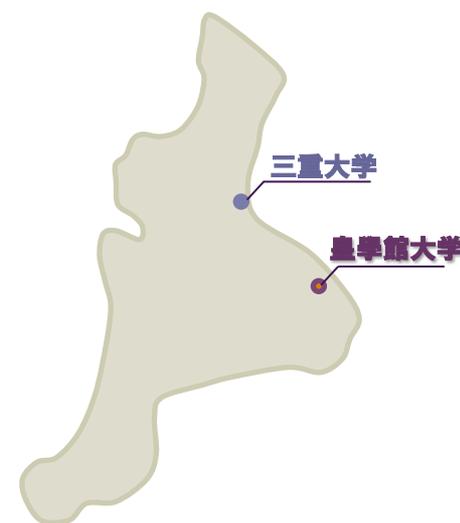


学外学習における学習成果の評価・認証 ～形成的評価指標（ルーブリック）の実践的活用～

2017年3月16日（木）

於 皇學館大学 6号館621教室



一度きりの人生を豊かに

Quality Discovery

質の可視化によるガバナンス



評価

質の監査

課題の抽出

学修環境の整備



認証

質の保証

学位・単位・学習成果



格付

教育ランキング

偏差値ではない

伸びる教育機関²

現場教職員の方々の声

感覚的にはありますが、

多重労務

研究者・教員に加えて、
カウンセラー、出席管理、
就職相談、基礎の手ほどき等



漂う徒労感・・・。

教員の”見えざる”負担感

高等教育以前の基礎教育

育成歩留まりの低さ（残った・変わったこと／教えたこと）

杞憂なのでしょうか？



最近の若者は・・・

「最近の若者は目上の者を尊敬せず、親に反抗、法律は無視。妄想にふけて道德心のかけらもない。このままだとどうなる？」

哲学者プラトン（紀元前427年 - 紀元前347年）

紀元前1680年頃に誕生したヒッタイト王国（現代のトルコの位置にあたる）の粘土板で作られた書簡にも「最近の若者は・・・」といった若者の現状を嘆く言葉が記述

アナトリア博物館（トルコ、アンカラ）所蔵

18歳人口における大学定員人数の割合

1.6% (公家・神官・僧侶)

7.0% (武士)

6.0% (町人)

84% (百姓)

江戸時代の身分別人口構成
(関山直太郎「近世日本の人口構造」)

57歳

47歳

41歳

34歳

24歳

22歳

2015年現在における年齢

7.8%

19.6%

23.1%

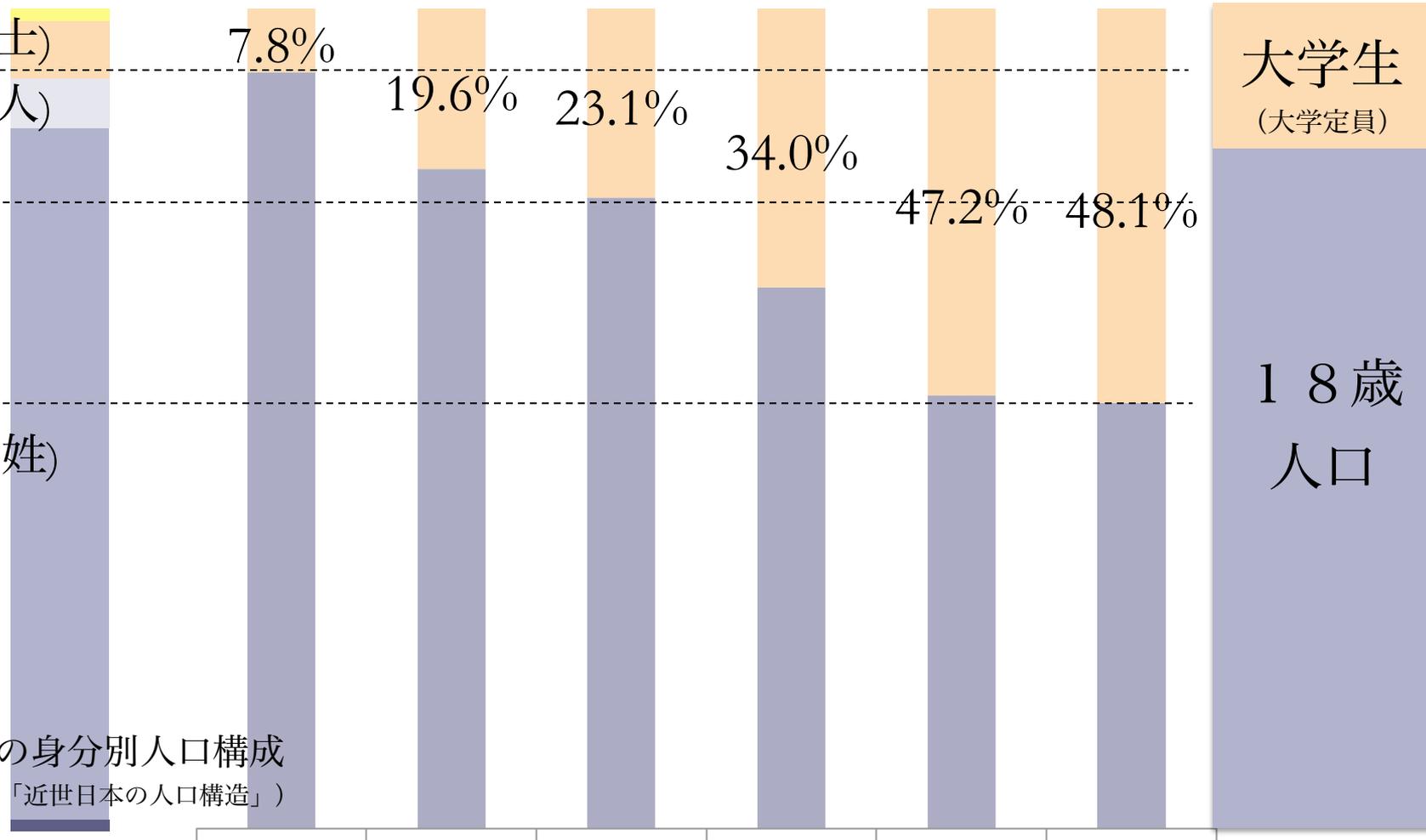
34.0%

47.2%

48.1%

大学生
(大学定員)

18歳
人口



18歳人口と大学定員人数の推移 (千人)

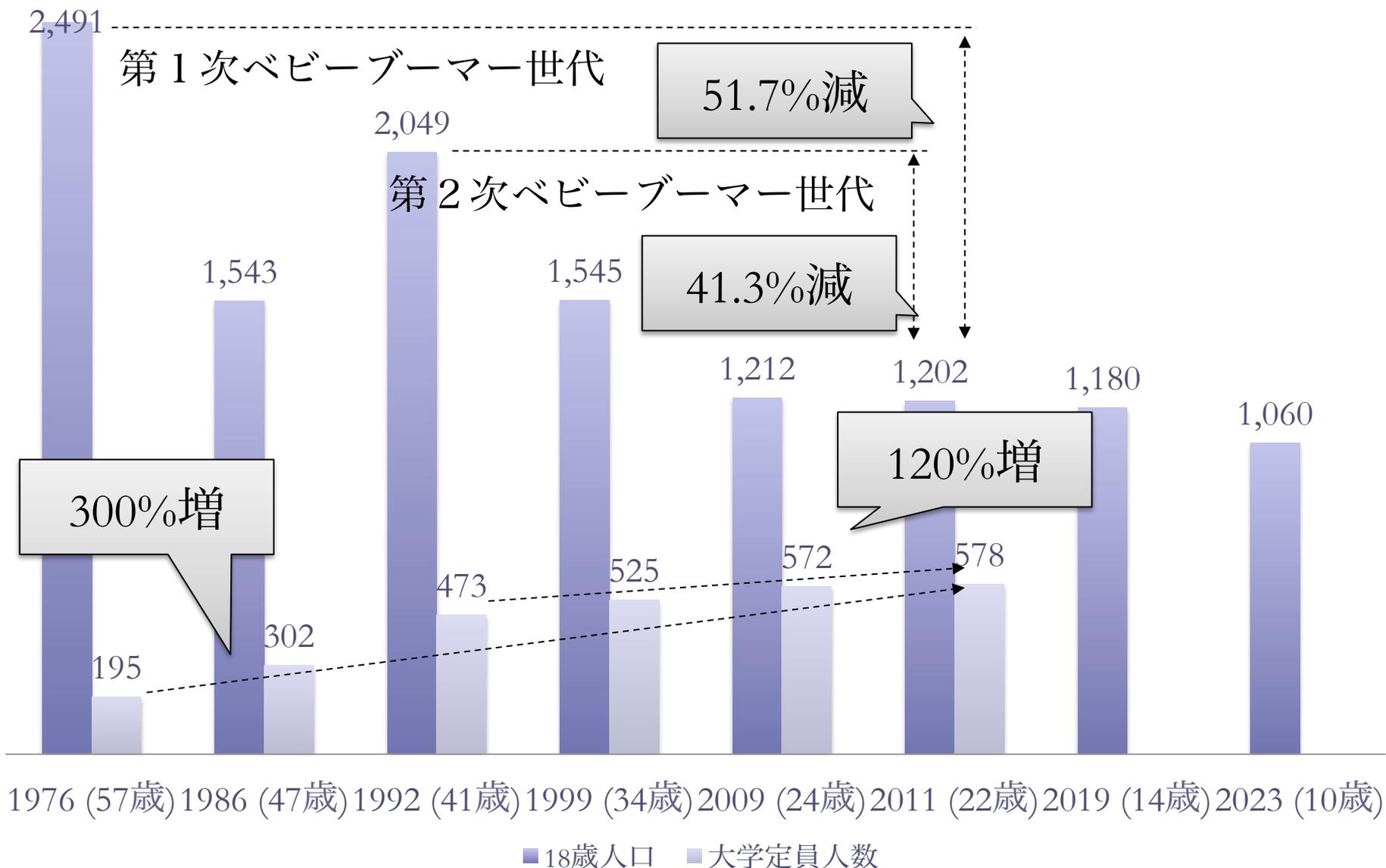
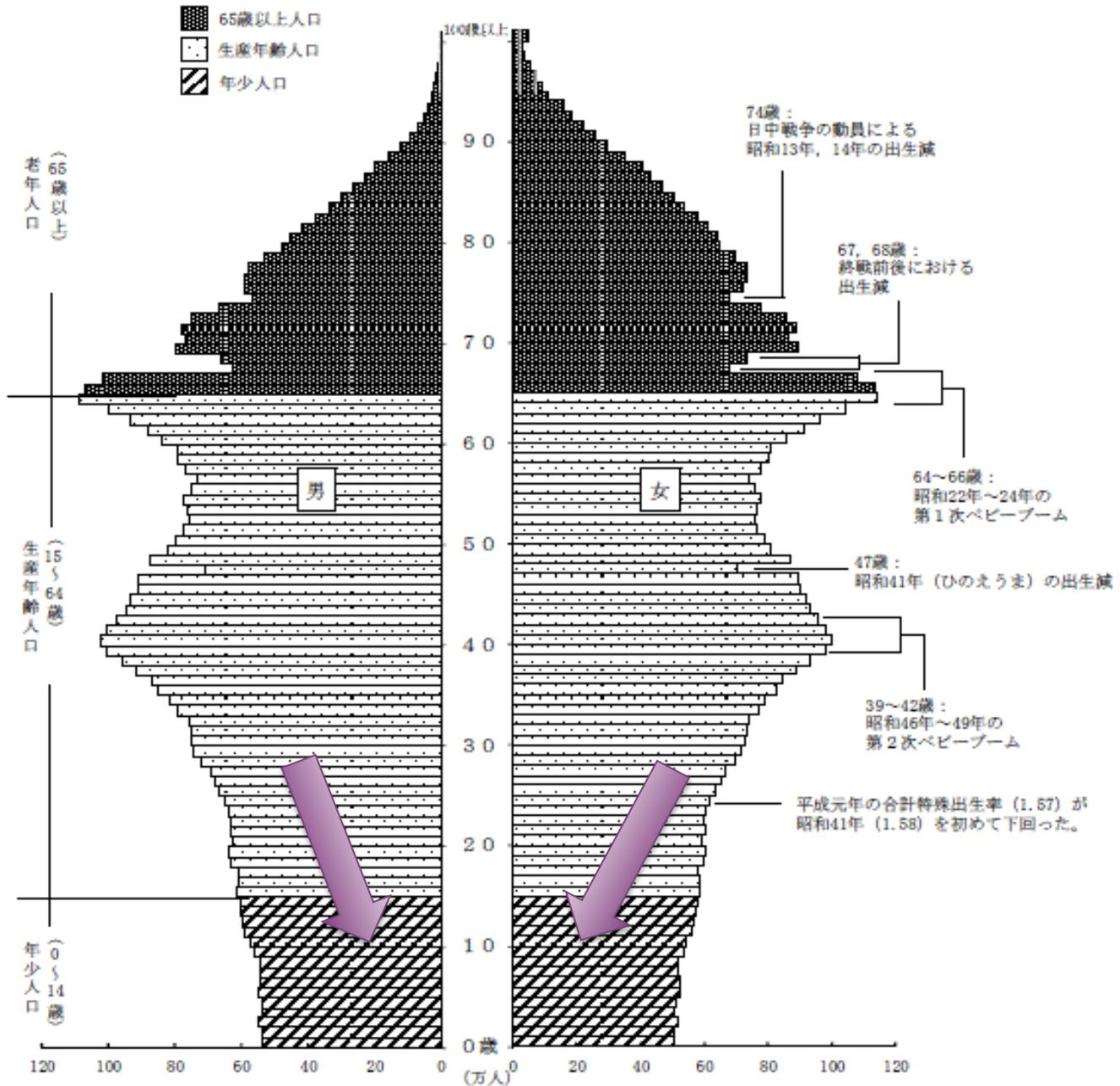


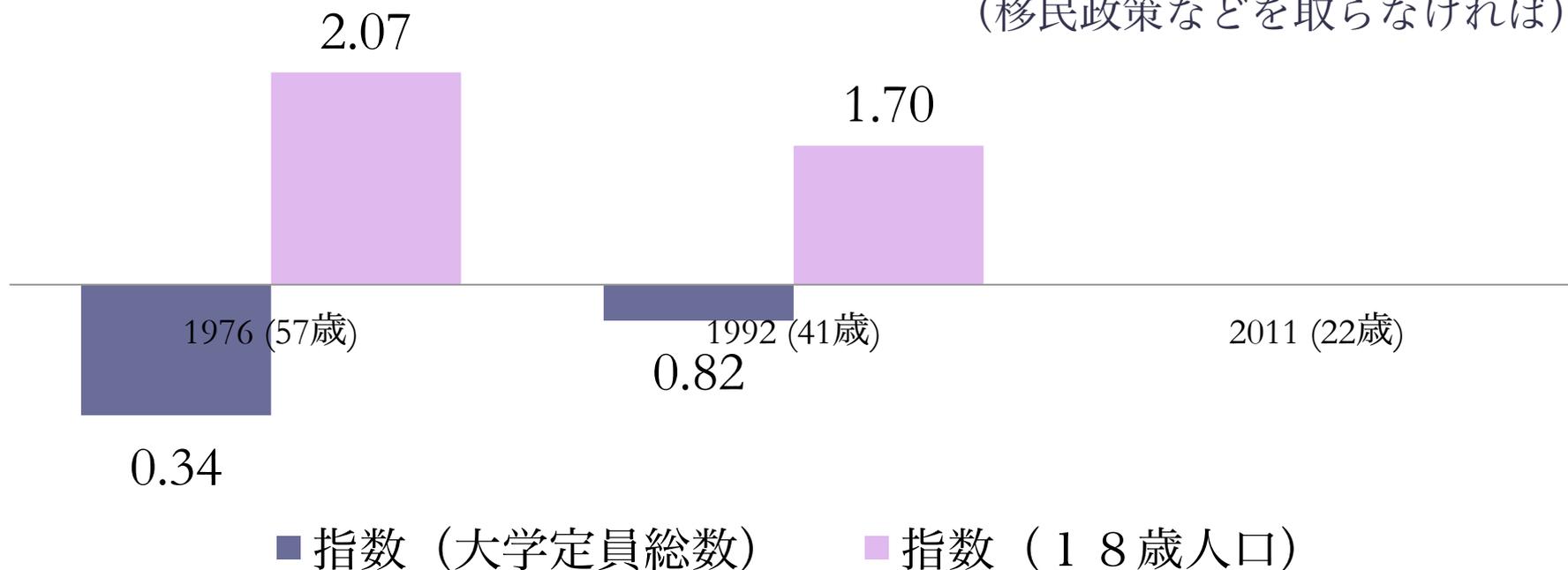
図2 我が国の人口ピラミッド（平成25年10月1日現在）



いまどきの大学生

- 大学は、年々入るのが簡単になっている
- 今後も日本人の若年人口は減り続ける＝今後も簡単になり続ける

(移民政策などを取らなければ)



	1976 (57歳)	1992 (41歳)	2011 (22歳)
指数 (大学定員総数)	0.34	0.82	1.00
指数 (18歳人口)	2.07	1.70	1.00
大学進学 の難しさ	6.14	2.08	1.00

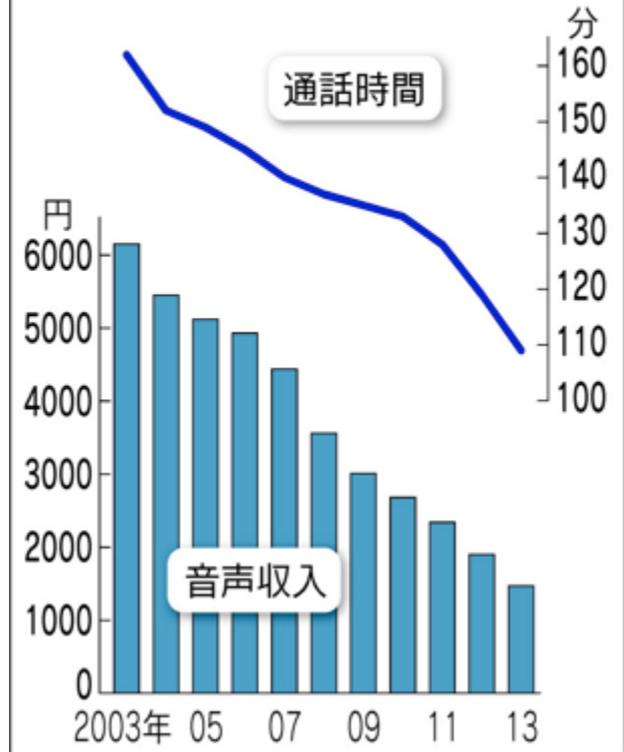
背景：コミュニケーション手段の変化

- 電子メールや無料通話・チャットアプリ「LINE」などが台頭し、電話の使い道がデータ通信に移行。
- ドコモの2013年4～6月期の1回線当たりの平均通話時間は月109分と、10年前から53分短くなった。

1日のうち3分半しか話さない計算だ。あるドコモ幹部は「メールやチャットに慣れた日本人は話さない」とあきらめ顔。米国の標準的な利用者は3～4倍の時間を通話に費やす。～

2013年8月23日 日経新聞より～

NTTドコモの音声収入と通話時間
(4～6月期、1回線当たりの月平均)



1996年
約700万ユーザー

2006年12月
700万ユーザー

2012年1月
700万ユーザー

小学生の時から世間ではMixiが主たるコミュニケーションツールに

義務教育における課題

平成15年（2003年）7月にOECD（経済協力開発機構）が実施したPISA調査（生徒の学習到達度調査）の結果が、昨年12月に公表された。それによれば、わが国の子どもたちの学力は、「数学的リテラシー」、「科学的リテラシー」、「問題解決能力」の得点については、いずれも一位の国とは統計上の差がなかったが、その一方で、「読解力」の得点については、OECD平均程度まで低下している状況にあるなど、大きな課題が示された。

PISA調査は、読解の知識や技能を実生活の様々な面で直面する課題においてどの程度活用できるかを評価することを目的としており、これは現行学習指導要領がねらいとしている「生きる力」「確かな学力」と同じ方向性にある。また、学習指導要領国語では、言語の教育としての立場を重視し、特に文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えを持ち論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることが重視されており、これらはPISA型「読解力」と相通ずるものがある。

平成17年12月文部科学省「読解力向上プログラム はじめに」

基礎学力において、特に言語説明力への懸念と対策を表明。

「言語説明力」を 「すべての教科の基本」 と位置付ける

平成17年 2月15日の文部科学大臣による中央教育審議会

言語説明力は
すべての教科の基本？



欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン

ラーニング・アウトカム（学習成果）とは？

学習プロセスを修了することで「知った」・「理解した」・「できるようになった」ことであり、

- 表出化（Express）された知識・技能・能力によって学び手の現在のレベルを示すことが可能
- アセスメントによりその成果の表出（Express）のエビデンスの検証が可能

表出（Express） = 押し＋出す →内面から外に出る

ラーニング・アウトカムの表出（Express）に不可欠な要素

1. 「知った」、「理解した」、「できるようになった」ことを学び手が能動的な表現で表出可能であること（私は○○ができるようになった）
2. 学び手のラーニング・アウトカムの表出がエビデンスとして第三者によっても認識可能であること
3. ラーニング・アウトカムの達成までの状況と行動を学び手が示すことが可能であること

ENQA “Quality Assurance and Learning Outcomes”を参照

言語説明力は学習成果の表出化のための基本的能力

現場教員が抱える体験型学修に対する課題

一般的な体験型学修の仕組み

実習・体験価値の提供

これまでにない経験ができ
そうです！



体験前

貴重な体験機会を提供しよう！

「課題探求・発見」

「情報収集・分析」

「チームビルディング」

「傾聴・共感」・・・

実体験

体験型学修の実践
ボランティア
フィールドワーク
PBL
インターンシップ 等



体験後

レポートによる振り返り

人の温かさに
ふれました！

色々考え
させられました。

また、
行きたいです！

もう少し・・・。
足りないな・・・。

言葉によって表出化されない体験型学習による学習成果

体験型学習の進展

学士課程教育の実質化（学生の学習時間の確保と学びの質的転換）

- カリキュラムの編成において活用するツールの総合的な導入と実質化。
(例：シラバス（学習時間の目安や必要な課題の明確化等）、プログラムシラバス、ナンバリング、GPA、キャップ制等)
- カリキュラムを体系化するための授業科目数の削減や科目間連携、単位制度の実質化を前提とした週複数回授業の実施（授業期間の弾力化）。
- 大学の機能や人材養成目的に応じた多様な教育手法の導入。
(例：アクティブラーニング（問題発見解決型学習、双方向型学習、ディベートによる学習等）等)
- TA、教育支援員など教育サポートスタッフの充実
- ICTを活用した双方向型の授業や教学システムの整備
- 授業外の学習のための環境整備
- 学生の学びを支える環境整備（学生が安心して学べるための十分な経済的支援、就職活動の早期化・長期化の是正）



文部科学省「平成25年度 大学における教育内容等の改革状況について」

一方で増加し続ける体験型学習

大学における施策①

言語説明力への対策

言語・説明、文章力、質問応答の課題

日本における高等教育の課題：

大学に国語（母国語）教育がないことは世界の大学と比べるとかなり珍しい

出典：大学破綻 合併、身売り、倒産の内幕 (角川oneテーマ21) 諸星 裕

アメリカの事例：English 101（コースナンバーの初め、“1丁目1番地”の意）

- 文章読書と文章記述、文章構成に関する基礎を身につける。
- 基本的な英語力必修中の必修であり、これを履修しクリアしないと次のステップには進めない。
- 記述に問題のある学生は「ライティング・クリニック」を受講することが義務付けられる。
- 大学によってオンライン・オフラインどちらのプログラムも存在する。

The screenshot shows the University of South Carolina website for the College of Arts & Sciences. The main heading is "First-Year English" and "ENGLISH 101 Critical Reading and Composition". A sidebar on the left lists navigation options: "First-Year English", "English 101" (highlighted), "English 102", "Awards", "FAQ", "News", "Calendar", "Directory", and "Resources". The main content area includes a "Description" section stating that English 101 is designed for structured practice in critical reading and writing, and a "Learning Outcomes" section which begins with "While instructors' approaches vary somewhat, all sections of 101 share some common learning outcomes. During the semester, students:".

言語・説明、文章力、質問応答の基礎の構築 “Self Dialogue Basics (セルフ・ダイアログ・ベーシックス)”

①簡単な質問への回答、システムへの入力（学生）

- ・システムへの入力

②Confirmation依頼（学生）

- ・入力内容の確認依頼

③フィードバック（サポートメンバー）

- ・入力内容のチェック（質問に対して正確に回答をしているかのチェックと学生へのフィードバック）

④質問に対して適切に回答された文章（学生）

Confirmationガイドライン*に基づき
フィードバック、再入力を依頼

*Self Dialogue Basicsガイドライン

- ・ 質問に対して適切に回答する
- ・ 適切な文法・文章構成で回答する
- ・ 代表的・具体的な事例で回答する
- ・ 自分自身の行動について回答する

*GLiD Confirmation Guidelineを活用

入力ガイドラインに基づき確認



日本版English101

「日本語1丁目1番地」

プログラムとしての活用

各課程における導入・活用方法

A専攻

イニシエーションセミナーにおける
*Self Dialogue Basics*の実施

課題がある学生は継続的な反復練習
「*Self Dialogue Basics*クリニック」

就職活動開始

- 定期的に学生のステータスを担当教員に共有
- *Self Dialogue 1-on-1* (個別面談) を希望者に実施

入学

1年修了時

2年修了時

B専攻

イニシエーションセミナーにおける
*Self Dialogue Basics*の実施

課題がある学生は継続的な反復練習
「*Self Dialogue Basics*クリニック」

DC2提出時期

学振申請開始

- 定期的に学生のステータスを担当教員に共有
- *Self Dialogue 1-on-1* (個別面談) を希望者に実施

入学

1年修了時

2年修了時

3年修了時

4年修了時

大学における施策②

ボランティア活動における学習成果の表出化

サービスラーニングプログラムにおける課題・背景

C大学ボランティアセンター長

「ボランティアセンターの活動を発展的にサービスラーニングの学習プログラムへと移行させていきたい。」

<教職員が抱えていた課題>

全学で導入されたルーブリックではエビデンスの**表出化が困難**であり、**現場の教職員にとって使い勝手が悪く**新たな尺度が必要であった。

カテゴリ	キーワード	定義	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
コミュニケーション力		他者の意見あるいは記述された文章を正しく理解したうえで、それに対する自分の意見を明確に表現する。効果的な説明方法や手段を用いて、関係者を納得させる	相手の理解し、相手に自分の意見を伝えることができない	相手の意見を一通り理解している	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで円滑なコミュニケーションを図っている	相手の理解したうえで、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている	様々な説明の方法や手段を駆使し、意見の異なる相手との相互理解を得ている	様々な説明の方法や手段を駆使し、背景の多様性（文化・習慣・価値観等）に起因して意見の異なる相手との相互理解を得ている
	傾聴力	他者の意見を聞き、正しく理解し、尊重する	意見を聞き、理解することができない	相手の意見を一通り理解している	相手の意見を十分理解している	相手の意見を十分理解し、自分と異なる意見にも耳を傾けている	相手の意見を十分理解し、自分と異なる意見にも耳を傾け尊重している	相手の意見を十分理解し、背景の多様性（文化・習慣・価値観等）に起因して多くの意見にも耳を傾け尊重している
	読解力	記述された内容を正しく理解する	記述された内容を理解できていない	記述された内容を理解しようとしている	記述された内容を十分理解している	記述された内容を十分理解した上で、記述されていない内容があることを考慮し、真意がある程度理解している	記述された内容、記述されていない内容を全て真意を十分理解している	記述された内容の真意を、背景の多様性（文化・習慣・価値観等）に起因して記述されていない内容を含めて、十分理解している
	記述力	正しい文章で他者が理解できるように記述する	記述された文章を他者が理解できない、あるいは、記述された文章に重大な誤りがある	正しい文章で、他者が一通り理解できるよう記述することができる	正しい文章で、他者が十分理解できるよう記述することができる	正しい文章で、他者が十分理解できる記述となるよう工夫をしている	正しい文章で、他者が十分理解できる記述となるよう工夫をしている	正しい文章で、背景の多様性（文化・習慣・価値観等）に起因して異なる意見を持つ他者でも十分理解できる記述となるよう秀でた工夫をしている
	提案力	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明したうえで、自分の意見を効果的に伝える	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明できない	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明しようとしている	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明できている	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明したうえで、自分の意見を効果的に伝えている	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明したうえで、自分の意見を効果的に伝え、自分と異なる意見を持つ相手からも十分な理解を得ている	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明したうえで、自分の意見を効果的に伝えることで、多様な背景に起因して異なる意見を持つ相手からも十分な理解を得ている
	議論力	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開する	一方的な主張に終わっている。あるいは意見を述べていない、誤った意見のために議論にならない	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開しようとしている	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開している	議論の目標を設定し、それに合わせて、自分と異なる意見を持つ相手とも議論を展開している	議論の目標を設定し、それに合わせて、自分と異なる意見を持つ相手とも議論を展開し相互理解を得ている	議論の目標を設定し、それに合わせて、背景の多様性（文化・習慣・価値観等）に起因して異なる意見を持つ相手とも議論を展開し相互理解を得ている
問題解決力		課題を正しく理解する。解決策を立て実行する。その結果を検証し、計画の見直しや次の計画への反映を行う	与えられた課題を正しく理解できない	与えられた課題を正しく理解し、解決をおこなっている	自ら発見した課題、もしくは与えられた課題を正しく理解している。解決策を立て、実行している	自ら課題を発見し、解決策を立て、実行している。実行結果を検証し、計画の見直しや次の計画に反映している	自ら課題を発見し、最善の解決策を選択し、計画的に実行している。その結果を多面的に検証し次の計画に反映している	絶えず変化し多様性を増す環境の中で自ら課題を発見し、随時最善の解決策を選択し、計画的に実行している。その結果を多面的に検証し次の計画に随時反映している
	課題発見	現状と目標（あるべき姿）を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけて出す	与えられた課題を正しく理解できない	与えられた課題を正しく理解できている	現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中に課題を見つけている	現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけて出している	現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけて出し優先順位付けができています	絶えず変化し多様性を増す環境の中で現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中から、随時解決すべき課題を見つけて出し優先順位付けができています
	課題分析	課題の因果関係を理解し、真の原因（本質）を見出す	課題の因果関係や本質を理解できない、または、見出せない	課題の因果関係や本質を理解しようとする努力をしている	課題の因果関係を理解し、そこから本質を見出そうと努力している	課題の因果関係を理解し、本質を見出している	課題の因果関係を理解し、かつ、本質を見出した上で、解決の方向性を認識している	絶えず変化し多様性を増す環境の中で課題の因果関係を理解し、かつ、本質を見出した上で、解決の方向性を随時認識している
	論理的思考	複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。論理的に自分の意見や手順を構築、展開できる	複雑な事象を整理し、構造化できない	複雑な事象を整理し、構造化しようとしている	複雑な事象を整理し、構造化できている	複雑な事象を整理し、構造化できる。自分の意見や手順を論理的に展開できる	複雑な事象を整理し、構造化できる。意見や手順を論理的に展開し、相手を納得させることができる	絶えず変化し多様性を増す環境の中で複雑な事象を整理し、随時構造化できる。意見や手順を論理的に展開し、相手を納得させることができる
	計画実行	目的と目標を設定し、順序立てて計画し確実に実行する	現状たりの行動をしている	目的と目標を設定し、計画を立ててそれを実行している	目的と目標を設定し、計画を立ててそれを実行している	目的と目標を設定し、計画を立て、その計画通りに実行している	目的と目標を設定し、複数の方法から最善の方法を選択し、計画を立て実行している	目的と目標を設定し、複数の方法から最善の方法を随時選択し、計画を立て実行している
	検証	計画で実行した結果を正しく評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行う	結果を検証していない	結果を一通り検証している	結果を正しく評価している	結果を正しく評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行っている	結果を正しく多面的に評価し、計画の見直しや次期計画への反映を随時行っている	絶えず変化し多様性を増す環境の中で結果を正しく多面的に評価し、計画の見直しや次期計画への反映を随時行っている

ルーブリック / Rubric

学習課題と到達レベルを段階に分けて示すマトリクス形式の評価指標

A document that articulates the expectations for an assignment by listing the criteria, or what counts, and describing levels of quality from excellent to poor.

	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4
指標例 Example	<p>論文記載の目的や主要命題を明確に定義できないため、その理解のために読み手は不完全な文章や詳細の欠如した説明を推論から読み解く必要がある。</p> <p>The paper has no clear sense of purpose or central theme. To extract meaning from the text, the reader must make inferences based on sketchy or missing details.</p>	<p>研究テーマを定義し始めたところであり、構成はまだ基礎的なレベルである。</p> <p>The writer is beginning to define the topic, even though development is still basic or general.</p>	<p>研究テーマは適切に設定されており、着想は十分に理にかなっているが、その研究テーマや着想の詳細さ、そして個人的な見識の深さを見せるには至っていない。</p> <p>The topic is fairly broad and the ideas are reasonably clear although they may not be detailed, personalized or accurate enough to show in-depth understanding</p>	<p>論文は理にかなっており十分に練られている。読み手の興味を引き、また引用や詳細を活用し主要命題の価値を高めることができる。</p> <p>This paper is clear and focused. It holds the reader's attention. Relevant anecdotes and details enrich the central theme.</p>



学生の学習成果を表出化できない

C大学ボランティアセンターの取り組み

ゆるやかな構造の中で「なんとなく」獲得される学修

デザインされたボランティアラーニングと その実践、運用

取り組んだ”デザイン課題”のポイント

①運用可能な尺度の開発

②学生の学習成果の表出化の仕組みづくり

③教職員の暗黙的経験に依拠しない

表出化された形式知に基づく”気づき”と”促し”の実践

運用可能な指標・尺度開発プロセス

人材養成目標の把握と言語化

「本学の理念・目的等」などにもとづく人材養成像の言語化

目標とする人材に資する能力の確定

ボランティアセンターの理念をもとに指標項目を策定

資する能力に適したエビデンスの抽出・言語化

Evidence Based Measurement (EBM)を活用した目標行動の抽出・言語化

期待する学生の成長に合わせた指標の段階化

経時的な成長目標の設定、各段階における目標行動の抽出・言語化

学生の学習成果の表出化を促す仕組みづくり

学生の省察を促す省察質問（文脈、行動、結果）の開発

C大学ボランティアセンター形成的育成指標

GLidD

Growth & Learning identification powered by Instructional Design

ボランティア・ラーニングGLidD

	Step1	Step2	Step3	
段階	最低限大学生活を送る上で高校卒業までに身につけているべきレベル（本来であれば） ＊高等教育を受けるに資する最低限の段階	大学入学直後に求められるレベル（本来であれば） ＊能動的な学修への転換	大学生としての規範と態度を身につけ、体験・演習型学修（ゼミ、アクティブ・ラーニング、ボランティア、インターンシップなど）に参加可能なレベル ＊能動的な学修に最低限必要な資質	大学生としてふさわしいレベル、体験・演習型学修（ボランティア、インターンシップなど） ＊単位取得だけでなくとも能動的に学修をして
感性と人間力				
幅広い教養				
成人にふさわしい記述技術	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトにおいてレポートを作成した経験がある。	レポート作成において引用や参照に関するルールを理解しており、データの整理・改ざん・盗用（コピペ）、といった不正を行うことなく実践することができる。	レポート執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえてレポートの執筆を実践することができる。	公に発表される記事の執筆経験があり、その内容を踏まえて実践することができる。
自己表明と言語化	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトを通じて、社会に携わる活動に参加するきっかけ・理由（動機）を自らの言葉で説明することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、特に自らが興味・関心がある社会現象を説明することができる。	自らが興味を有する社会現象に関してどのように学ぶことができるか、理解しており説明することができる。	社会価値観と自らの価値観を比較し、自らの価値観に基づいて学びを実践している。
省察と自己変容	過去の経験（部活、学生生活、受験勉強やボランティア活動等）を通じて、自らが苦手とする行動を把握することができる。（＊授業科目等の苦手科目は含めない）	過去の経験から、他者の指摘や受け付け（フィードバック）を通じて自らの課題を認識することができる。	過去の経験を通じて把握した自らの課題に対して、克服のための努力・学習・行動に取り組むことができる。	過去の経験を通じて自らの課題を認識し、克服のための努力・学習・行動に取り組むことができる。
異文化に対する理解力				
状況の把握	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトなど、何らかの組織での活動に参加したことがある。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトに対する他者の期待値を、客観的に把握することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトにおいて、言われたことをこなすだけでなく、他者（教職員）の期待値を自発的に確認し、他者の期待値に応えることができる。	対外的な活動活動（サークル等）の中で、地域や現場と必要に応じて、人脈を築くことができる。
集団における最適な意思決定の先導	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、自らの疑問点に関して口頭で他者に質問をすることができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、正誤の解がない問いに対して自らの意見と立場を表明することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトにおけるグループでの議論の中で、自らの意見と立場を客観的に評価し、論拠を持って表明することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、自らの意見・立場・論拠の精意決定を実現することができる。
情報ネットワークの活用	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で他者（教職員等）から与えられた課題に対して、課題を理解するための情報を収集することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で他者（教職員等）から与えられた課題に対して、課題を深く理解するためのヒアリングを行うことができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で他者（教職員等）から与えられた課題に対して、現場でのヒアリングを通じて収集した情報を取捨選択し情報をまとめることができる。	対外的な活動活動（サークル等）の中で、様々な情報収集ネットワークを構築し、情報をヒアリングを通じて収集することができる。
情報の選別と分析	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、他者（教職員等）から与えられた課題に対して、情報を整理しまとめる方法を学んだ経験がある。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトを通じて収集した情報を整理しまとめる方法を会得し、活用した経験がある。	会得した情報を整理しまとめる方法を活用し、自ら実際に現場において収集した情報や調べた情報を活用した分析結果を創出することができる。	対外的な活動活動（サークル等）の中で、様々な情報収集し、分析と分析結果をプレゼンテーション等で発表することができる。
コミュニケーション能力				
他者への敬意	日常において、対面での他者からの質問に対して、正しく関わり自らの言葉で質問に応えることができる。	形式的ではなく、対面での他者への敬意を示し、挨拶（おはようございます・こんにちは・こんばんは）と感謝・謝辞（ありがとう・ごめんなさい）の表明を行うことができる。	成人として不可欠な通信手段（電話・メール・SNS等）における他者とのやり取りのマナーを把握しており、実践することができる。	成人として礼節を持った対面での意思疎通をすることができる。



Situation

- what was the context / situation?

Task

- what was required of you in terms of aims / objectives / challenges?

Action

- what did you do (as opposed to your colleagues / team-mates / supervisor)?

Result

- what happened / what was the outcome of your actions?

エビデンスの表出手法 ~STAR~



あなたが過去、集団の中でリーダーシップをとった経験を教えてください。

あなたが過去、誰かと何かを共にかがわり合い何かを成し遂げた経験を教えてください。

Task

どんな状況で
Context

何をして
Action

どんな結果になったのか
Result

あなたが過去、何か身の回りで起こった難しい課題を解決した経験について教えてください。

What happened, what was the outcome of your actions?

C大学ボランティアセンター形成的育成指標

指標の各段階毎の省察質問 (Reflective Question)に回答することにより、エビデンスを表出化

GLidD

Growth & Learning identification powered by Instructional Design

中央大学 ボランティア・ラーニングGLidD

	Step1	Step2	Step3
段階	最低限大学生活を送る上で高校卒業までに身につけているべきレベル (本来であれば) *高等教育を受けるに資する最低限の段階	大学入学直後に求められるレベル (本来であれば) *能動的学修への転換	大学生としての規範と態度を身につけ、体験・演習型学修 (ゼミ、アクティブ・ラーニング、ボランティア、インターンシップなど) に参加可能なレベル *能動的学修に最低限必要な資質
感性と人間力			
幅広い教養			
成人にふさわしい記述技術	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトにおいてレポートを作成した経験がある。	レポート作成において引用や参照に関するルールを理解しており、データの捏造・改ざん・盗用 (コピー)、といった不正を行うことなく実践することができる。	レポート執筆の構成やルールを覚わったことがあり、その内容を踏まえてレポートの執筆を実践することができる。
自己表明と言語化	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトを通じて、社会に表われる活動に参加するきっかけ・理由 (動機) を自らの言葉で説明することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、特に自らが興味・関心がある社会現象を説明することができる。	自らが興味を有する社会現象に関してどのようにして学ぶことができるか、理解しており説明することができる。
省察と自己変容	過去の経験 (部活、学生生活、受験勉強やボランティア活動等) を通じて、自らが苦手とする行動を把握することができる。 (*授業科目等の苦手科目は含めない)	過去の経験から、他者の指摘や投げかけ (フィードバック) を通じて自らの課題を認識することができる。	過去の経験を通じて把握した自らの課題に対して、克服のための努力・学習・行動に取り組むことができる。
Reflective Question	1) 自身が苦手とする行動とはどのようなことでしょうか? 2) 1) が苦手なことで、過去の経験においてうまくいかなかった、あるいは失敗した体験を説明して下さい。 3) 1) の克服のためにいかなる改善を行うことができるか、説明して下さい。	1) 代表的な事例を教えてください。どのような機会で他者から指摘や投げかけ (フィードバック) をもらいましたか? 2) 1) のフィードバックを通じて、それまで気がつかなかったような課題に気がつきましたか? 3) 2) の気づきから、自らの行動をどのように変化させましたか?	1) 代表的な事例を教えてください。ご自身どのような場面で自らが有する課題を発見しましたか? 2) 1) の課題に対して、ご自身どのような努力・学習・行動を行いましたか? 3) 2) の努力・学習・行動の結果、ご自身の行動はどのように変容しましたか? 具体的な行動で答えて下さい。
異文化に対する理解力			
状況の把握	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトなど、何らかの組織での活動に参加したことがある。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトに対する成果の期待値を、客観的に把握することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトにおいて、言われたことをこなすだけでなく、他者 (教職員) の期待値を自発的に確認し、他者の期待値に応えることができる。
集団における異議を意見決定の共通	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、自らの疑問点に関して口頭で他者に質問をすることができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトの中で、正誤の解答のない問いに対して自らの意見と立場を表明することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクトにおけるグループでの議論の中で、自らの意見と立場を客観的に評価し、論拠を持って表明することができる。

省察と自己変容 Step3

過去の経験を通じて把握した自らの課題に対して、克服のための努力・学習・行動に取り組むことができる。

<省察質問>

1) 代表的な事例を教えてください。ご自身はどのような場面で自らが有する課題を発見しましたか?

2) 1) の課題に対して、ご自身はどのような努力・学習・行動を行いましたか?

3) 2) の努力・学習・行動の結果、ご自身の行動はどのように変容しましたか? 具体的な行動で答えて下さい。

活動中での指標活用：省察質問を通じた経験の表出化（インタビュー・対話）



どんな状況で
Context

何をして
Action

どんな結果になったのか
Result

①（学生）ボランティア活動

経験の実践

②（学生・コーディネーター）インタビューにおける省察質問を通じて経験の表出化・言語化
エビデンス（文脈・行動・結果）の抽出

③（コーディネーター）GLidDとの照合

段階・特性の把握

④（コーディネーター・学生）経験の「意味付け」

経験の認知と内省化（気づき、メタ認知）

⑤（コーディネーター・学生）次のステップの明確化・行動

目標行動の設定に基づいた新たな学修の促し

大学における施策③

PBLにおける学習成果の表出化

PBLの学習成果の評価・認証課題

フィールドワーク型の科目「むらの大学」

<授業内容>

フィールドワークを中心とした実践型科目。授業の構成はグループによるディスカッション、フィールドワーク、及び結果の発表と報告を兼ねたプレゼンテーションで構成されている。

<教職員が抱えていた課題>

限られた数の担当教職員が学生1人1人の活動を通じた学修成果を把握することが困難であり、かつディスカッションやフィールドワーク、グループプレゼンテーションなどにおける個人の学習成果をどのように評価・認証すれば良いのか、課題を感じていた。

当初の成績評価傾向

参加・出席していれば全員：A

冒頭・途中で脱落した学生：F

通年授業で様々な活動があり、一義的に最終成果報告のパフォーマンスなどだけで評価するわけにいかない

平成27年度 (総) 「むらの大学」プログラム (現行)

<「むらの大学」における望ましい水準>

- ・震災や原発事故によって引き起こされた具体的な地域における諸問題や、元々地域が抱えていた諸課題について、その背景や構造などを理解できる。
- ・地域社会に存在する諸問題の背景や構造について理解し、課題解決に向けた活動計画を作成することができる。
- ・**コンピテンシー(5つの力)**: 地域課題を発見する力、地域を興す力、地域を伝える力、地域をつなげる力、地域を分析する力を身につけることができる。

事前学習	4月	授業	被災地の現状 (講義) : 浪江町役場職員
	5月	授業	川内村について事前学習
		スタディツアー	川内村スタディツアー
		授業	川内村現地実習のふりかえり
		授業	放射能の基礎知識 (講義) : 東京大学 坪倉医師
		授業	南相馬市について事前学習
		スタディツアー	南相馬市でスタディツアー
	6月	授業	南相馬市現地実習のふりかえり
7月	授業	南相馬市 / 川内村 希望する地域を選択 事前学習: フィールドワークに向けて、 各グループで目標を立て学びをすすめる	
実践学習	8月	フィールドワーク	南相馬市を選んだ学生 8/21-9/3 9/2 2週間の学びを発表
	9月	フィールドワーク	川内村を選んだ学生 9/4-17 9/16 2週間の学びを発表
事後学習	10月	授業	事後学習: フィールドワークのふりかえり、まとめ
	11月	授業	むらの大学成果報告会に向けた発表準備
	12月	成果報告会	12/5 成果報告会 南相馬市 12/13 成果報告会 川内村

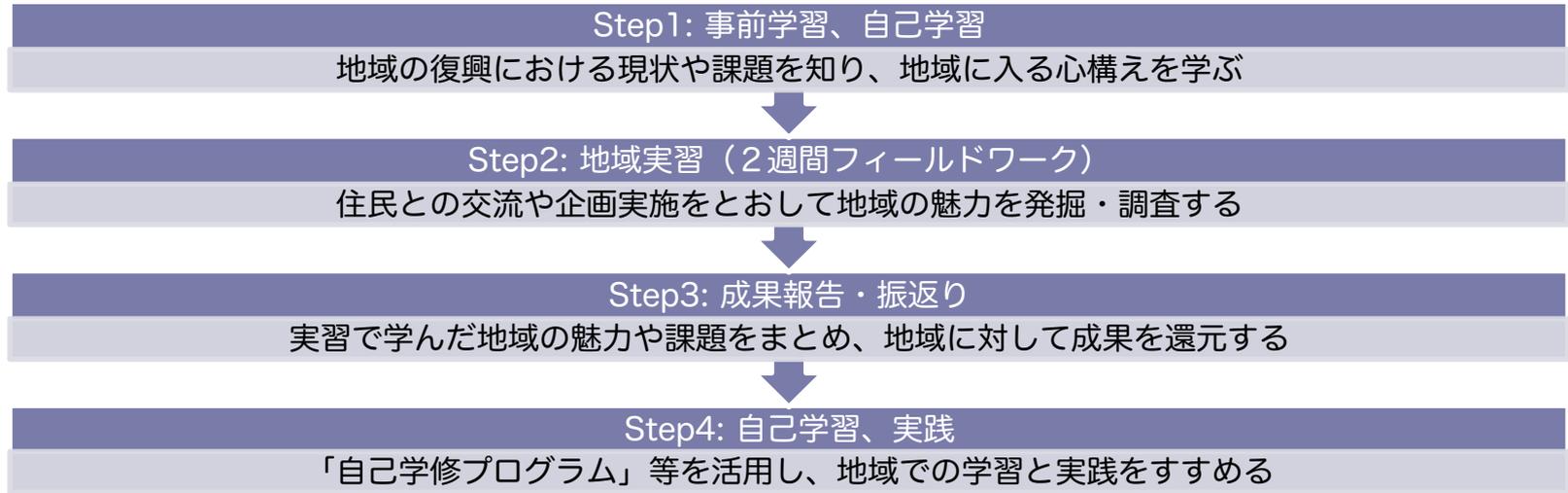
【フィールドワークのプログラム】

- 目的: 震災から地域が再生するために私たちができることを考える (行動する)
- 内容: グループにおける目標に合わせて、学生自身で2週間の計画を立て実施
実習ノートによる振り返り
- 期間: 2週間

地域を多面的に知る	1日目	まちを理解する
	2日目	
	3日目	グループでの取り組みを理解する テーマを深める
	4日目	
	5日目	
	6日目	実行に向けた準備
	7日目	
私たちにできることを 行動におこす	8日目	班のテーマ・目標をもとに行動
	9日目	
	10日目	
	11日目	
	12日目	2週間の成果をふりかえる
	13日目	成果を還元する
	14日目	(大学に戻る)

PBL型科目における活用

原子力災害によって住民が一時避難を余儀なくされた地域をフィールドとして、地域課題を実践的に学ぶ。見聞だけにとどまらず、地域に対する知識を習得していきながら、企画や実践を通じて地域への理解を深め、課題解決のための糸口を探していくプログラム。



望ましい水準

- 震災や原発事故によって引き起された具体的な地域における諸問題や、元々地域が抱えていた諸課題について、その背景や構造などを理解できる
- 地域社会に存在する諸問題の背景や構造について理解し、課題解決に向けた活動計画を作成することができる
- コンピテンシー（5つの力）：地域課題を発見する力、地域を興す力、地域を伝える力、地域をつなげる力、地域を分析する力を身につけることができる



学習デザインと学習成果



ゼミ・研究室

学内授業

学内学習
学内インターンシップ

学外学習
学外インターンシップ

学外学習
PBL

教員学生間の物理的接触頻度

○

△

△

×

×

エビデンスの

取り組み・活動内容の把握

○

○

○

△表出化が難しい×

適切なフィードバック

○

△

△

△

△

易

学習成果の認証

難

学外学習の学習成果の表出化と評価・認証

	Step1	Step2	Step3	Step4
段階	最低限大学生活を送る上で高校卒業までに身につけるべきレベル（本来であれば） ＊高等教育を受ける最低限の段階	大学入学直後に求められるレベル（本来であれば） ＊能動的学修への転換	大学生としての規範と態度を身につけ、体験・演習型学修（ゼミ、アクティブ・ラーニング）に参加可能なレベル ＊能動的学修に最低限必要な資質	大学生としてふさわしい規範を行動を通じて体現しており、体験・演習型学修（ゼミ、アクティブ・ラーニング）で貢献可能なレベル ＊単位取得だけでなく、ゼミや研究を通じて少なくとも能動的に学修してきた修了レベルの学生像
地域課題を顕微鏡する力……地域にあらわれる多様な課題を顕微鏡する力	授業や演習活動で取り扱われる様々な地域事例に対して、疑問を呈することができる。	授業や演習活動で取り扱われる様々な地域事例に関し疑問を有した内容について、公開情報や現地情報など様々な情報源を活用し調べ上げることができる。	地域での対外的な協働活動（グループワーク等）の中で発見した様々な疑問点を教員に提示することができる。	地域での対外的な協働活動（グループワーク等）の中で発見した様々な疑問点や収集した情報をもとに、その背景や発生要因に関して教員と議論を行うことができる。
Reflective Question	1) 授業や演習活動の中で取り扱った地域の具体的な事例を一つ説明してください。 2) 1) の事例の中で、ご自身が興味を有した部分を説明してください。 3) 1) の事例に対して、ご自身が疑問を有した事柄を説明してください。 N/A	1) 授業や演習活動の中で取り扱った地域の具体的な事例を一つ説明してください。 2) 1) の事例に対して、ご自身が疑問を有した事柄を説明してください。 3) 2) の疑問を解消するために、どのような情報を収集しましたか？説明してください。 4) 3) の情報を利用して、ご自身はどのようなことが理解できましたか？説明してください。	1) ご自身は過去どのような対外的な地域協働活動に参加しましたか？説明してください。 2) 1) の地域協働活動の中で、ご自身が疑問を有した事柄を説明してください。 3) 2) の疑問点を、どのように教員に提示しましたか？説明してください。 N/A	1) ご自身は過去どのような対外的な地域協働活動に参加しましたか？説明してください。 2) 1) の地域協働活動の中で、ご自身が疑問を有した事柄を説明してください。 3) 2) の疑問を解消するために、どのような情報を収集しましたか？説明してください。 4) 2) の疑問点に関して、ご自身は教員とどのような場で議論を行いましたか？説明してください。
課題・目標の設定	授業や演習活動におけるグループワーク等を経験したことがある。	授業や演習活動におけるグループワーク等において、教職員など、他者から設定された課題や成果目標を理解している。	授業や演習活動におけるグループワーク等において、教職員など、他者から設定された課題や成果目標に対して、課題を解決したり目標を達成した経験がある。	授業や演習活動におけるグループワークに対する他者（教員やグループのメンバー等）の期待の水準を自発的に確認・合意し、取り組む課題や成果目標を設定するために必要な要素をまとめることができる。
Reflective Question	1) 授業や演習活動における自発的な課題設定ができたか？ご自身の進捗にどのような変化があったか？	1) 授業や演習活動における自発的な課題設定ができたか？ご自身の進捗にどのような変化があったか？	1) 授業や演習活動における自発的な課題設定ができたか？ご自身の進捗にどのような変化があったか？	1) 授業や演習活動における自発的な課題設定ができたか？ご自身の進捗にどのような変化があったか？



提出



返答

再提出



指標の項目を1つ選び
質問に回答

GLidD Supportが
エビデンスの表出化をサポート
フィードバック

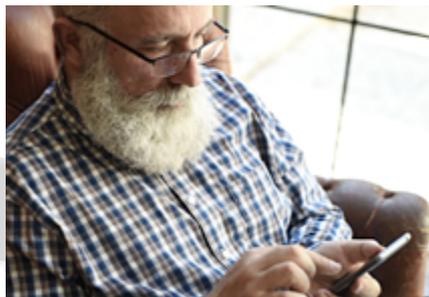
完了するまで
フィードバック・修正

返答
(必要な時のみ)

提出



通知



リクエスト



レビュー完了の確認
次の項目へ

最終化された学生の
記述内容をレビュー

GlidD Supportが学生の完了を確認。
担当教職員へレビュー依頼

本日はありがとうございました。

大学における施策④

木曾岬町活性化プロジェクト学習成果の表出化

三重創生ファンタジスタ人材

三重県に新たな雇用を生み出し、三重県を創生・創発するため、地域の課題に関してさまざまな主体と多面的な視点から対話しながら地域のイノベーションを推進できる三重創生ファンタジスタ（状況や事態を的確に把握し、複眼的な視点から柔軟で想像力と創造力に富んだ発想や思考ができ、行動力とリーダーシップを発揮しながら、周りの人と協働できる人材）の養成を目的としている。

三重創生ファンタジスタ	GLiD
状況や事態を的確に把握し	
状況の把握	状況の把握（意味づけ）
事態の的確な理解	課題の探求（課題発見）
複眼的な視点から柔軟で想像力と創造力に富んだ発想や思考ができ、	
複眼的な視点	情報収集ネットワークの活用（情報収集） 情報の選別と分析
柔軟な発想や思考	論理的思考（なぜと疑問を持つ）
想像力と創造力	集合知を活用する力（他者の知を自らの知に変える力）
行動力とリーダーシップを発揮しながら、	
行動力	持続的な行動の実践
リーダーシップ	リーダーシップ
周りの人と協働できる	
周囲との協働	社会に対する貢献と学習意欲（社会的意義と社会貢献、自己学習） 協働活動の実践（巻き込み、協働）

GLidD

Growth & Learning identification powered by Instructional Design

グリッド：グローバルな世界での形式知化された評価・昇進・育成を実践するノウハウを学修の世界に応用した、質の高い人材養成を実現する形成的学修と省察・評価モデル

尺度の開発フロー

①何を目的に指標を開発するか？

②どの能力をどの指標で測るか？

③どう指標を開発するか？

④どう能力を測るか？

⑤指標をどう継続的に運用するか？

a) 目標行動の抽出

Doer-Non-Doer 調査

b) 段階的指標化

c) 省察質問を通じた言語化の仕組みづくり



個人の判断に依拠しない指標、Reflective Question



目標行動の実現度を測る

最先端のグローバル企業で標準採用されている、国や文化・世代を超えて客観的で正確な自己認識形成を行うための人材採用・育成・評価手法

Evidence Based Measurement (EBM)

行動や知識の言語化

尺度をEvidenceに基づき作成し

評価における基準の曖昧さを徹底排除



運用可能な指標・尺度開発プロセス

人材養成目標の把握と言語化

「ファンタジスタ創生人材」にもとづく人材養成像の言語化



目標とする人材に資する能力の確定

ステイクホルダーとの協議をもとに指標項目を策定



資する能力に適した**エビデンス**の抽出・言語化

Evidence Based Measurement (EBM)を活用した目標行動の抽出・言語化



期待する学生の成長に合わせた指標の段階化

経時的な成長目標の設定、各段階における目標行動の抽出・言語化



学生の省察を促す段階ごとの**省察質問**の開発

学生の省察を促す省察質問（文脈、行動、結果）の開発

木曾岬町活性化プロジェクト

木曾岬町には、トマト・海苔・養鰻等の特産品が数多く存在しています。また、それらを支えている人材こそ大きな資源であります。その一方で、後継者不足という課題も抱えております。町内には小学校と中学校が1校ずつしかなく、高校進学からは町外へ出てしまいます。また、将来的に帰って来たいと思っている生徒は1割しかいないというアンケート結果も出ています。持続可能な地域社会を構築するという観点からは大変に由々しき状況（地域に担い手となる次世代がいない。）です。そこで、この度は、**地域で頑張っている大人の姿を次世代である中学生に広く知ってもらおうというプロジェクト**を県内大学と連携して実施し、多くの大人達の活動する姿を知り、地域の魅力をより一層掘り下げる事を目標に活動することにしました。

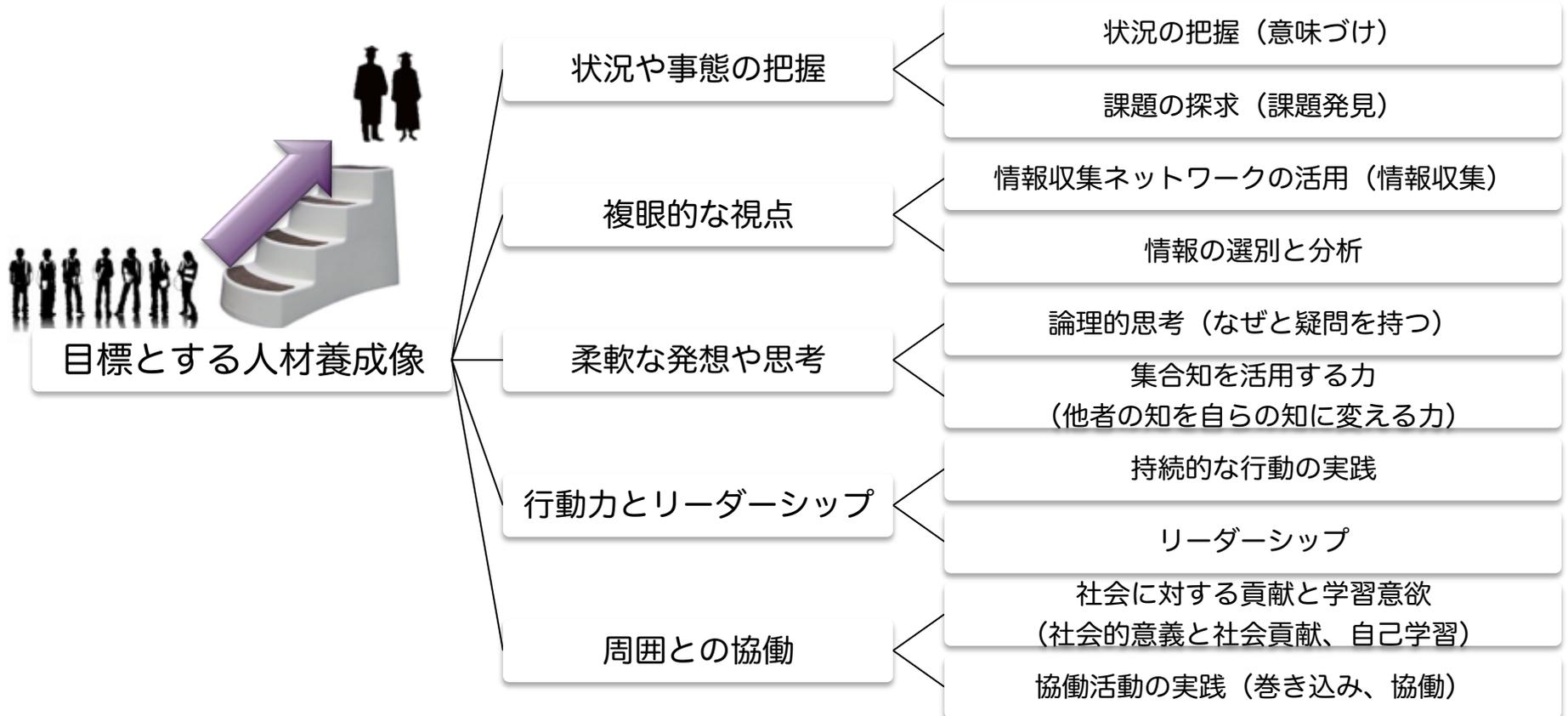
「ホームページより抜粋」



Objective

具体的達成目標

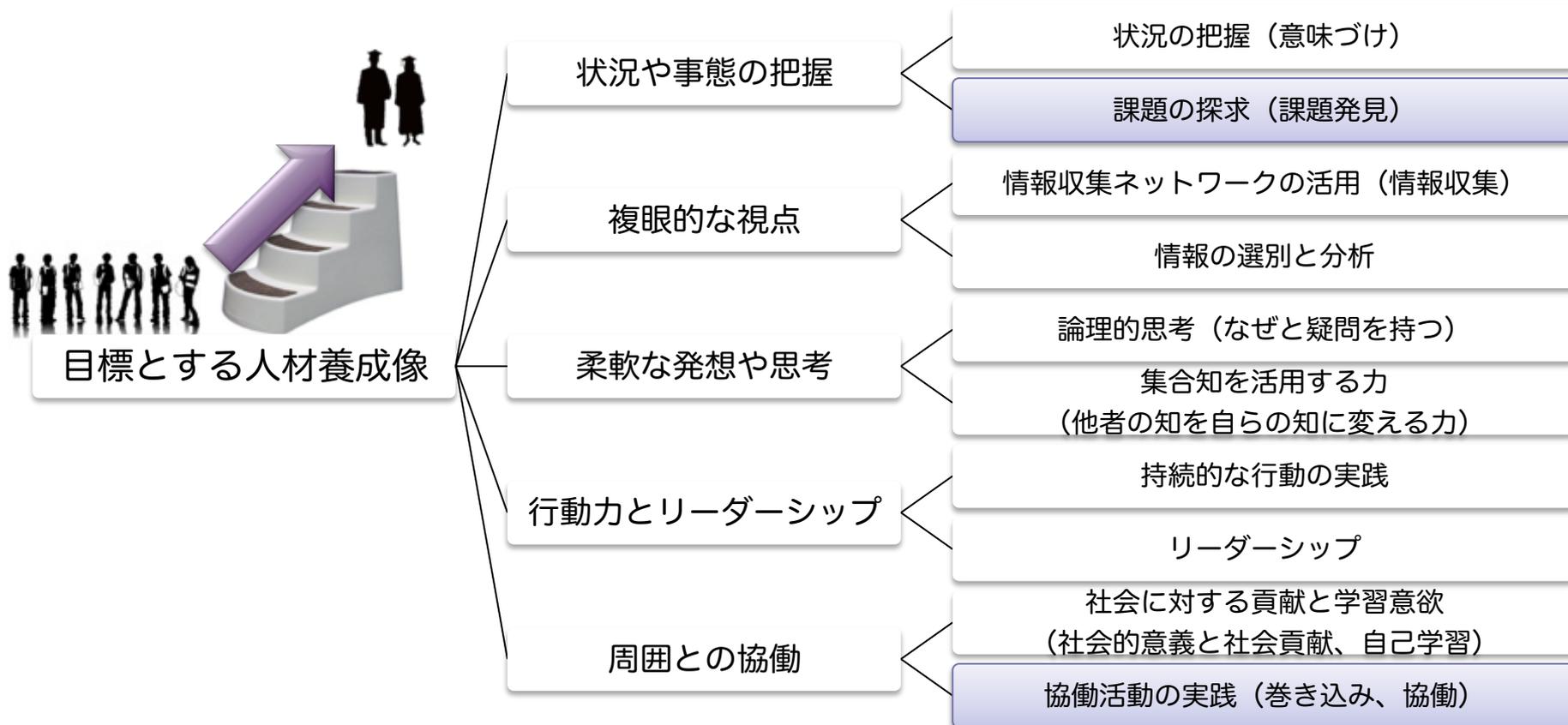
状況や事態を的確に把握し、複眼的な視点から柔軟で想像力と創造力に富んだ発想や思考ができ、行動力とリーダーシップを発揮しながら、周りの人と協働できる人材



Objective

具体的達成目標

状況や事態を的確に把握し、複眼的な視点から柔軟で想像力と創造力に富んだ発想や思考ができ、行動力とリーダーシップを発揮しながら、周りの人と協働できる人材



言語説明力の技術的修練：木曾岬町活性化プロジェクト（プレ項目）

設問例) 1) これまでの人生における代表的な事例でお答えください。学内外の演習活動、フィールドワーク、アルバイトや部活動・サークルなどにおいて、他者から与えられた課題に対して取り組んだ活動経験を、活動の背景・目的や与えられた課題に関する情報などを含め、あなたのことを知らない他者にも分かるように説明してください。

学生の回答例①：私は「人形劇サークル」に所属しておりました。その中で2年間「渉外」と呼ばれる役職、いわゆる外交担当をしておりました。県内の幼稚園・保育園・津市役所などから年間30前後から依頼を受け公演を行っております。そのため、この「渉外」は重要な役職であり、依頼の分別や下見、公演料の交渉など様々な調整を行っておりました。必ずしも他人から与えられた課題というわけではありませんが、自分たちがスムーズに活動を行うためにメンバーとの予定をすり合わせ、年間30前後の人形劇公演を行ってきました

計4回のフィードバックと修正の結果

私は大学1回生から「人形劇サークル」に所属しておりました。人形劇サークルは県内の幼稚園・保育園・津市役所から年間30前後の依頼を受け公演を行っておりました。人形劇は毎年更新しており、新しい劇の練習時間や新しい人形制作に係る時間を多く必要としていました。私は人形劇サークルで2回生、3回生の2年間「渉外」と呼ばれる役職、いわゆる外交担当をしておりました。この「渉外」は公演を行う上で重要な役職であり、依頼の分別や下見、公演料の交渉など様々な調整を行っておりました。しかし、渉外活動は人形劇サークルの主な活動である劇練習や人形制作と同時進行で処理する必要があり、その仕事量から練習時間や製作時間を割いて活動していました。そのため、サークルのメンバーから渉外活動の効率化を求められました。

言語説明力の技術的修練：木曾岬町活性化プロジェクト（プレ項目）

設問例) 課題に取り組む際に抱いた疑問点や不明点に対して、わからないことを理解するために、または疑問を解消するために、どのような情報源（情報を有している他者、書籍・文献、インターネットなど）を活用し、どのような情報を収集しましたか。またその情報を活用して、ご自身はどのようなことが理解できましたか、あなたのことを知らない他者にも分かるように説明してください。

学生の回答例①：外部とのかかわりが非常に多かったため、基本的なマナーや電話・メール等の連絡方法、また人形劇公演の依頼をやむを得ずお断りする場合の方法が不明な点だった。

計4回のフィードバックと修正の結果

渉外活動の非効率な点を客観的に判断するために、サークルメンバーが渉外活動の中で時間を要した活動を対策することで効率化につなげることができると考えました。まず、渉外活動を行っていた先輩から当時の活動について情報を共有していただきました。その際に活動の中でどのような点が時間を要したかをリストアップしました。同様に当時のサークルメンバーにも簡単なアンケートを行い、渉外活動を補助する中で時間を要した部分をリストアップしました。もともと時間を要したと意見が多かったものが、公演依頼に係る作業についてでした。公演の依頼を募集する際に、三重県津市内の保育園・幼稚園・図書館などの幼児教育の場への公演依頼についての文書等が封入された封筒を年間70通～80通程度、送付していました。依頼募集の文書及び返送用の書類の作成、また送付する封筒への宛名書きなど、作業量が多く、時期が集中するため大変であるという意見が多く見られました。これらの情報を活用して、渉外活動の非効率な点が膨大な作業量を時間・人数をかけて処理していた点であると理解できました。

言語説明力の技術的修練：木曾岬町活性化プロジェクト（ポスト項目）

設問例) この度取り組んだ木曾岬町での活動経験を、活動の背景・目的や与えられた課題に関する情報などを含め、あなたのことを知らない他者にも分かるように説明してください。

学生の回答例①：木曾岬町は町内の中学生へのアンケートを実施し、「将来的に木曾岬町で働きたい」と思っている中学生は1割程度ということがわかりました。これを改善するために、木曾岬町の中学生に木曾岬町の魅力を発見してもらうことを目的に、木曾岬町活性化プロジェクトが行われました。具体的に、中学生が木曾岬町で活動している大人に対して取材を行い、写真撮影や質問などからその人物を紹介するポスターを作成しました。取材された人物を含めた100人ほどの前で、中学生は作成したポスターや活動経験などを発表しました。
私はこのうちの1人の生徒とチームを組み、取材やポスター作成を補助しました。

計2回のフィードバックと修正の結果

木曾岬町は町内の中学生へのアンケートを実施し、「将来的に木曾岬町で働きたい」と思っている中学生は1割程度ということがわかりました。これを改善するために、木曾岬町の中学生に木曾岬町の魅力を発見してもらうことを目的に、木曾岬町活性化プロジェクトが行われました。具体的に、中学生が木曾岬町で活動している大人に対して取材を行い、写真撮影や質問などからその人物を紹介するポスターを作成しました。取材された人物を含めた100人ほどの前で、中学生は作成したポスターや活動経験などを発表しました。
私はこのうちの1人の生徒とチームを組み、取材やポスター作成を補助しました。取材活動では生徒がインタビュー内容を考える際に文章の構成や話し方などを指導しました。インタビューでは写真撮影と取材先の生い立ちや活動内容などを主材しました。その内容を発表するためにポスターをパワーポイントを使って作成しました。中学生が決定したテーマを基にして、パワーポイントの使い方を指導しつつ作成しました。

言語説明力の技術的修練：木曾岬町活性化プロジェクト（ポスト項目）

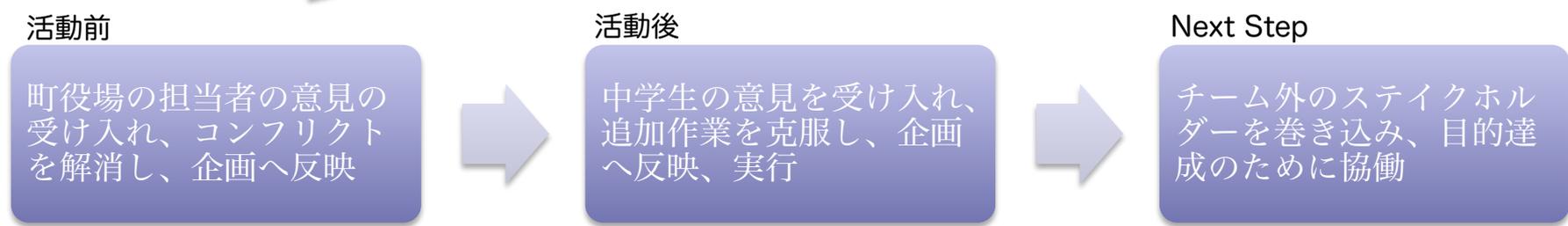
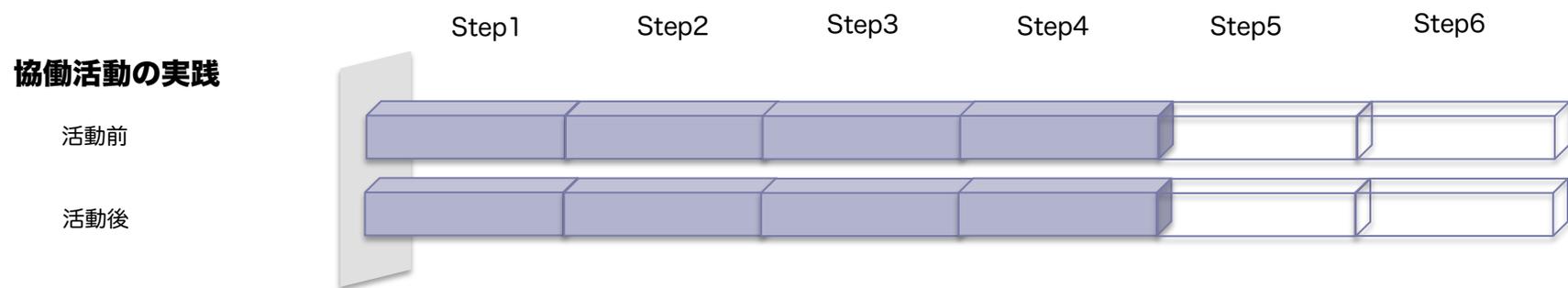
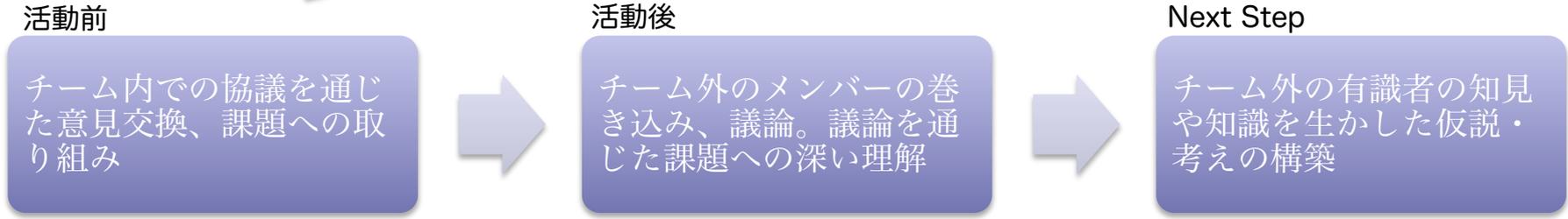
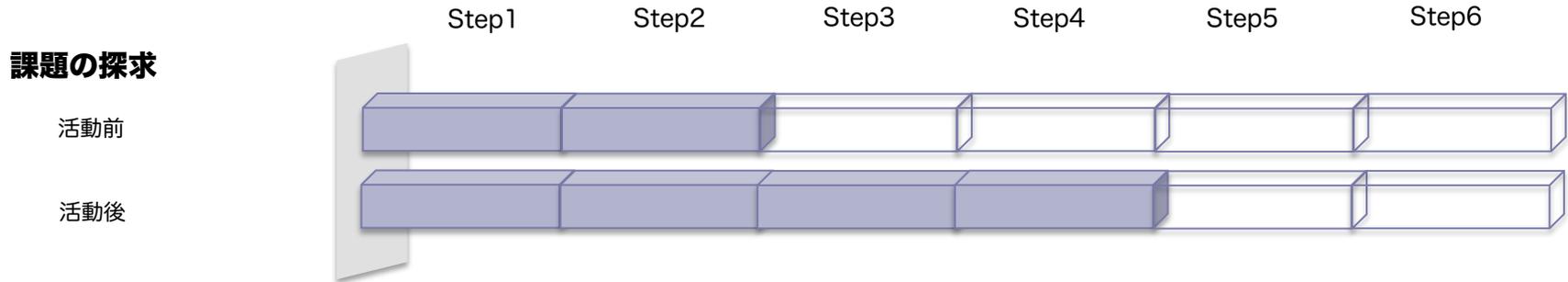
設問例) 課題に関する疑問点や不明点を解消するために活用した情報源から理解したことをもとに、あなたはどのような人々（チームメンバーや学校の教職員、部活動やサークルの顧問、周囲の大人など）とどのような議論や話し合いを行い、その結果どのように理解が深まりましたか、あなたのことを知らない他者にも分かるように説明してください。

私は生徒の性格を理解でき、これをもとに、私と同様に木曾岬町活性化プロジェクトに参加し中学生を補助する学生と、中学生からの意見の引き出し方について議論しました。学生全員でそれぞれの担当する中学生の性格を理解し、議論の場で報告することで自分の中で再認識も同時に行いました。その結果、生徒の性格も千差万別であり、その本人を理解しない限りうまく意見を引き出すことは難しく、そのためにももっとコミュニケーションをとるべきであるとわかりました。また、私の意見と、他の学生からのアドバイスで、私が担当する中学生から意見を引き出すには本人に自信を付けさせることが重要であることが理解できました。

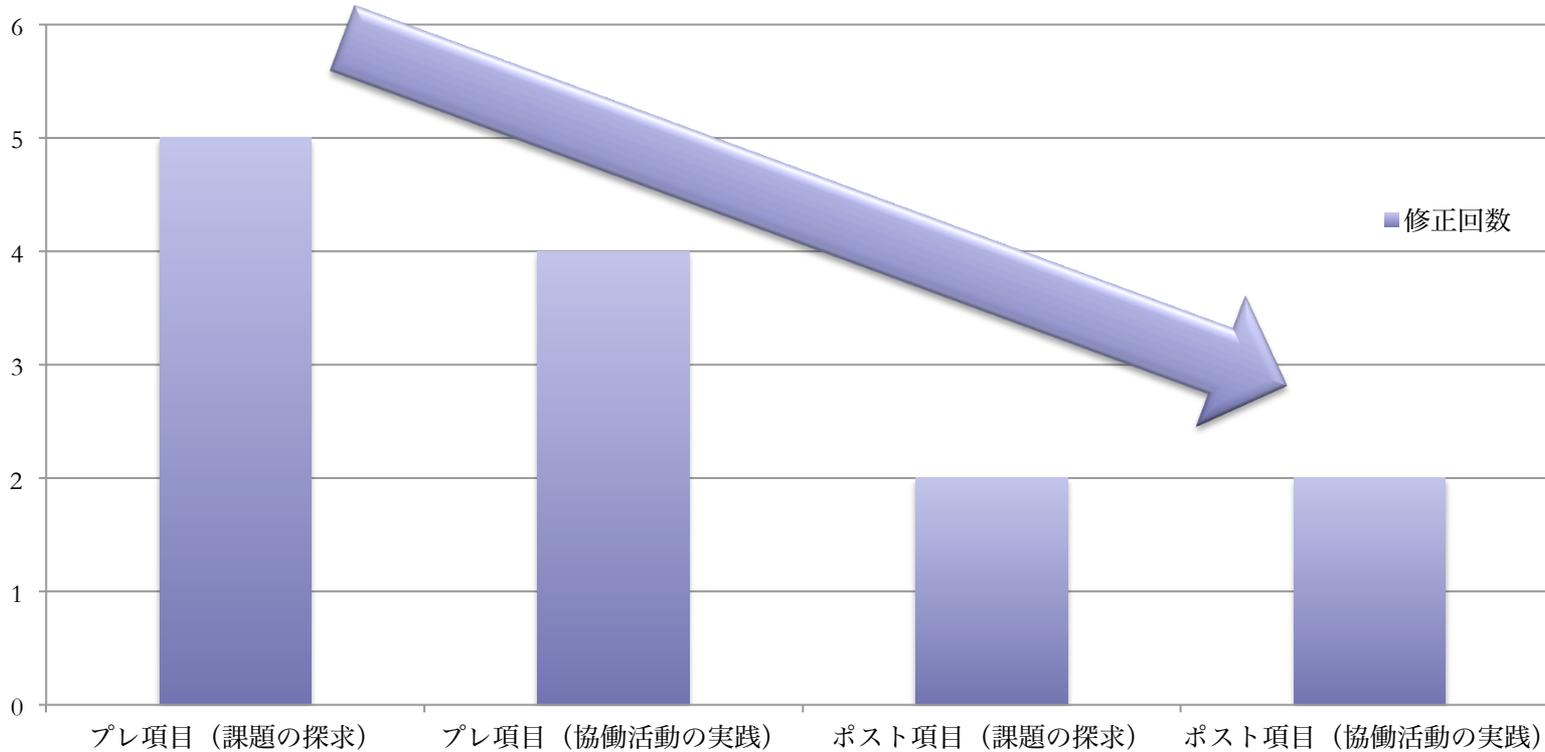
計2回のフィードバックと修正の結果

私は生徒の性格を理解でき、これをもとに、私と同様に木曾岬町活性化プロジェクトに参加し中学生を補助する学生と、中学生からの意見の引き出し方について議論しました。学生全員でそれぞれの担当する中学生の性格を理解し、議論の場で報告することで自分の中で再認識も同時に行いました。その結果、生徒の性格も千差万別であり、その本人を理解しない限りうまく意見を引き出すことは難しく、そのためにもっとコミュニケーションをとるべきであるとわかりました。私の意見として、本人に自身を付けさせることが発言を引き出すことに繋がると提案しました。また、ほかの学生から、中学生に与えられた木曾岬町ジュニアPR大使の称号を本人に自覚させることが自身に繋がるのではというアドバイスをいただきました。その結果、中学生から意見を引き出すには本人に自信を付けさせることが重要であり、そのためには本プロジェクトの活動が素晴らしいものであると本人に自覚させることが重要であると理解できました。

木曾岬町活性化プロジェクト（活動前 vs. 活動後）



言語説明力の向上



初期に見られた傾向

- 質問内容の正確な理解の不足
- 抽象的な表現（「より深い対外活動に」など）
- 不適切な文章の構成
- 文法上のケアレスミス、誤表記

